



【学校教育目標】「人間性豊かな心を持ち 実践力のある生徒の育成」  
—思いやり・やる気・たくましさ—

# 若松中だより

千葉市立若松中学校  
校報  
第 22 号  
令和 元年12月25日

## 冬休みに向けて

校長 古市 直彦

早いもので、明日から冬休みが始まります。

本日の全校集会では、生徒に次のような話をしました。

明日から始まる冬休み、今年は、11日間という例年より少し短い冬休みとなります。冬休みのしおりには、「年末年始の伝統文化に触れ、楽しんで欲しい…」という話を書かせてもらいました。

今日は、それと同時に、皆さんに意識してもらいたい言葉について、お話ししたいと思います。この言葉です。

「1年の〇は元旦にあり」

この〇の部分には、漢字1文字が入るのですが、わかる人いますか？

「計」という文字ですね。「計算する」「計量する」「計画する」等と使われますから、見積もる時、くわだてる時に用いられる文字です。

「1年の計は元旦にあり」

この場合は「目標をたてる」というような意味にとらえていいのでしょうか。

新しい年を迎えるときに、新しい目標を立てる…大切なことだと思います。ぜひ、令和2年の自分の目標を立て、「自分は1年間、こう過ごすんだ」という覚悟を決めてください。

「覚悟を決める」というのは、とても大切なことなんです。

たとえば、「コンビニに買い物に行こう」と家を出るときと、「富士山に登山に行こう」と家を出るときとは、まったく違う覚悟が必要です。当然、準備すべき物も変わってきますね。自分に何が足りなくて、何が必要なのかを考える必要も出てきます。現在の自分を正しく振り返り、これからの生活に向けての目標をもつ…。ぜひ、そんな機会を設けてほしいと思います。



生徒の皆さんが、どんな目標をもってくれるか、楽しみにしています。

また、4月からの9ヶ月間、保護者の皆様には、本校の学校教育に際しまして、多大なるご理解とご協力をいただきました。この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。

健康にご留意され、良い年の瀬をお迎えいただきますようお祈り申し上げます。

## 主な行事のお知らせ

### 3年推薦希望者面接 (12月5日~19日)

3年生の単願推薦・併願推薦希望者を対象に面接を実施しました。今後の進路についての確認と面接練習が主な目的です。「志願の理由」や「将来の夢」等について尋ねる事が多いのですが、様々な答えが返ってきます。受験する高校の教育目標や行事等についてまでしっかりと調べている生徒や、自分なりのしっかりとした夢をもっている生徒が多く、素晴らしいと思いました。緊張した表情で、面接に臨んでいた3年生からは、自分の希望する進路の実現に向けて一生懸命になっている真剣さを感じ、一層「応援したい」という気持ちが高まりました。



## 校内授業研究会（12月16日、他）

12月16日に、本年度から教科化された「特別の教科 道徳」の授業の進め方に関する校内研修会を行いました。9月からこの日までの間に、ほとんど全ての教科等で授業研究会を重ねて参りましたが、今後も、令和3年度から施行される新しい学習指導要領下での学習に向け、「主体的・対話的」な授業のあり方について研修を深めていきたいと思っています。



## 税についての作文

毎年、国税庁と全国納税貯蓄組合連合会との共催で中学生に「税についての作文」を募集しています。これは、将来を担う中学生が、税に関することをテーマとして作文を書くことを通じて、税について関心を持ち、税について正しい理解を深ることを目的としています。

本年度、本校からはNさん(3-5)の作品が「千葉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞」を受賞し、12月10日から16日まで、千葉そごう地下1階にある「そごうギャラリー」で展示もされていました。

おめでとうございます。

右に、その作文も紹介します。



### 千葉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

私達の生活と税金の使い道

千葉市立 若松中学校

三年 N

私は社会科の歴史で、色々な種類の税を学んできました。例えば労務や食べ物です。もしも私がタイムスリップすることができて、好きな時代に暮らし、その時代の税をその時代の中心の人達に納めるとしたら私は、現代の時代を選びたいと思います。なぜなら、税が私達の生活をより豊かにしてくれてくれているということを実感できるからです。

現在、消費税が引き上げられることについて様々な意見があります。税の引き上げに反対する人達の多くは、税の引き上げによって生活が苦しくなるという心配があるからだと思っています。本当に苦しいとき、国が税を使い支援してくれる「生活保護制度」というものがあるとききました。私が貴い物をするときに払っている税が困っている人の助けになっているかも知れないと思うと、とても良い気持ちになります。また、道路や私達の生活を守ってくれる警察官、学校などの生活を豊かにし

てくれるもの、水道水などの生きていくためになくてはならないものも税金が使われているそうです。つまり、国の収入の多くが形を変えて私達のために使われているのです。だとすると、消費税が上がるといことは本当に悪いことなのでしょうか。国の収入が増え、困っている人を助けられ、私達の生活もよりよくなるのではないのでしょうか。

二〇一一年三月十一日に起きた、東日本大震災。八年たった今でも、私は幼稚園の卒園式前に体験した、あの恐怖を覚えています。また、私が体験した以上の恐怖、苦しみを感じている人がいることを知っています。そして、国がそのような人を助けることを知っています。私は、税というものはちょうど、発電機のようなものだと思っています。国民がタービンを回し(税を納め)、作られた電気(税)は様々なものに変化し私達のもとに届く、そう思えるのです。

私は、税について考える途中で「目先のことにこだわらない」ということを学びました。消費税率が上がる＝私達のお金が減ること(このことではなく、その先に何かがあるのか、どうなるのか)という疑問をもとに答えを探しました。その結果、このような答えを導きだせました。

私は将来、今より多くの税を納めると思っています。将来、日本には多くの外国人やタイムスリップで別の時代から来た人がいるかも知れません。そのような人達に私はきつこう言ってしまう。「日本の税の使い道は、素晴らしい！」

校報「若松中だより 第22号」をお届けします。ご意見やご感想を広く募集しております。お気づきの点等ございましたら、下記までご連絡ください。

( 千葉市立若松中学校 校長：古市 直彦 ☎043-232-6125 )